

## なんだ・かんだ

### ◆ 勤労感謝の日 ◆

11月23日、今日は「勤労感謝の日」だと言うのに、家族は泊まりで出かけてしまい、残った私は一人寂しくこの原稿を書いています。「馬鹿野郎一。俺の日頃の勤労に対して感謝しろ一。誰のおかげでおまんま食べられると思ってるんだ一。」と口に出して言えずに心で叫びつつ、原稿が仕上がったら焼鳥屋へ向かう私です。

一人は気楽です。さて、そんなことで「勤労感謝の日」についてちょっと調べてみました。

「勤労感謝の日」の意味は現在の祝日法によれば、「勤労をたつとび、生産を祝い、国民たがいに感謝しあう」となっています。戦前の新嘗祭(にいなめさい)の日付をそのまま「勤労感謝の日」に改めたものである。新嘗祭は旧暦11月の2回目の卯の日に行われていた。新暦になり、そのままでは新嘗祭が1月になって都合が悪いということで、新暦11月の2回目の卯の日に行うこととした。日付自体に深い意味はなく、たまたま日本が太陽暦を導入した年が11月23日だっただけの事である。

と言うことで新嘗祭についても調べてみました。

新嘗祭というのは明治憲法での祝日で、その意味は「天皇が新穀を天神地祇に勤めて神を祀り、自らも食す」とあります。

また、何故11月の2回目の卯の日なのか？これは11月中卯の日は冬至と同じか、やや遅いくらいになることが多く、

- ・冬至は太陽の力が一番衰え、再び力を取り戻し始める日
- ・太陽は、天照大神
- ・天皇は天照大神の子孫で、その力を受け継ぐ存在

新嘗祭の行事の意味として「天皇自らも新穀を食すことによって新たな力を得、次の年の豊穡を約束する行事」ということで、行事を行うのにもっとも適する時期は、冬至の日の前後と言うことになるわけです。

新嘗祭はつまりその年の収穫を神に感謝する秋祭りですね。それまで収穫を神に感謝してきたのを、「生産を祝い」と言うことで、実在する人間のこの収穫をもたらした「一年の勤労を尊ぶ」ということでしょうか。

明治憲法から昭和憲法に変わり天皇陛下は「神」から「象徴」へ、そして実りの感謝も「神」から「人」へ変わったのですね。11月23日に意味がないのではなく、「勤労感謝の日」を「新嘗祭」の日に当てたことに意味があったのです。

そして私は自らに感謝しつつ秋の味覚を食しに出かけます。



## リフレッシュ

十一月の初めに京都へ行ってきました。本来ならば紅葉の初めで、山々は少し色付いているはずでした。JRRのCM「そつた京都 行こう」のコピーでおなじみの「常寂光寺」そして「天龍寺」。「渡月橋」。残念ながらテレビで見ただけの美しい紅葉は見ることができませんでした。これも地球温暖化の影響でしょうか。しかし、初秋の京都はさすがに、寺院の庭や仏像は日頃の生活を忘れさせ、心のリフレッシュをすることが出来ました。また、最近一人の時間を出来るだけ作るようにしています。一人で飲みに出たり、出張先へ約束の時間より早く着くようにして知らない土地をフラフラしたりします。その間に本を読んだり、取り留めなく色々なことを考えたりして時間の過ぎるのを楽しみます。

代表取締役 服部 徹一郎

## 社員紹介

### ● 吉川 裕之 ●

今回は、建設グループの吉川(52歳)の自己紹介です。

入社以来数十年が経ちました。

会社では主に公共事業を中心に活動を行っています、近年社会情勢の急激な変化により予算の削減など建設業界も大変厳しい状況におかれています。弊社も例外ではなく、出来れば公共事業に頼らず少しずつでも独自の事業を考え民間工事への移行も検討して行かなければならないと思っています。

現在は、以前担当をしていた民間の工場の営繕工事などにも携わるようになり何かのきっかけになればと考えています。

又私的なことでは、子供の少年サッカーチームで父兄の代表をやっていますが実務はほとんど女性に任せ切で、現場監督のようなものです。週末は練習や試合などに追われる日々を過ごしています。

今はスポーツを見るだけですが学生時代バスケットボールで汗を流していました、年々年をとるにあたり子供がまだ小さいので健康管理に気をつけ体を動かさないといけないと思っています。

今年もインフルエンザが流行っているようですので、皆さんも健康管理に注意し良い御年をお迎え下さい。



## ■ 社員採用できました ■

6月に正社員募集をこの欄に掲載させていただきました。だいぶ時間は掛かりましたが、営業グループの営業マンと建創グループの施工管理技術者と各1名ずつ採用が決まりました。いずれも中途採用で年齢は37歳と39歳。前職の都合で実際に入社は12月と1月と少し遅くなりますが、2名については随時紹介させていただきます。

尚、募集に際しまして、皆様から何名かの方のご紹介をいただきました。ご心配・ご協力いただき誠にありがとうございました。

本レターのご提供につきまして、ご不要・ご迷惑という方に付しましては、その旨ご一報頂きたいと思っております。次回からの発送を中止させていただきます。

株式会社 チキリ  
静岡県駿東郡清水町卸団地 73

Tel 055-971-9610 Fax 055-973-1534

E-mail gen@chikiri.com URL http://www.chikiri.com/